
編集後記

すでに15年前のことであるが、米国イリノイ大学 Bioacoustics Research Laboratory で Floyd Dunn 先生(故人) が長年主催された Conference for Ultrasonic in Biophysics & Bioengineering (通称 Allerton Meeting) に参加したときのことである。1日を掛けて、朝から夕方まで10人ぐらいが一人1時間ぐらいの持ち時間で順に発表を行い、それに対して質疑が行われた。実際には、発表の最中にも、その発表を遮るように質問がどんどん出され、研究発表の本質と厳しさを体験した。このときの Allerton Meeting の参加者は世界中の超音波医学に関わる研究者40名余りで、そのときの記念写真をみると、現在の世界の医用超音波工学研究の最先端を進めている顔ぶればかりである。

最近の学会の学術講演会は、大きくなればなるほど、費用を賄うために講演数や企業展示を多く募り、そのかわり、ポスター発表数の割合を高くしたり、1件あたりの口頭発表時間や質問時間を短縮する場合が散見される。

自然科学系の学会発表は、1660年に設立されたイギリスの王立協会が最初で、アイザック・ニュートンを始め科学者が議論を交わしたそうである。発表会における発表件数を増やして参加者数を多くし祭典にすることにも、その

分野を広めるためには確かに意義はあるが、学会の口頭発表の起源がイギリスの王立協会にあるとすれば、原点回帰して、研究とその研究発表を非常に大切にすることも重要であるだろう。勿論、そういう場で研究発表を行うことには、「厳しさに挑戦する勇気と覚悟」が必要であるが、しかしそれは研究者としては当然通過すべき登竜門であり、確実に多くのことを学ぶ機会になろう。そして何よりも重要なことは、発表者は、聴衆に対して「稀有な発明・発見で自分は感動したのだ」という気持ちを伝える、素晴らしい発表を行うことであろう。自分が感動していなければ、聴衆に感動は伝わらない。

当学会誌の編集においては、編集委員全員の共通理解として、査読は丁寧に行い、査読回数に制限を付けないようにし、教育的指導も行うように心がけている。若き研究者におかれては是非活用して頂きたいと思う。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第44巻 第1号 (通巻第297号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円+税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成29年1月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社